

C—62 小・中学生の身体の個成長に関する研究 (予報)

福島大教育 ○高橋キヨ子
聖和学園短大 雁部 愛
福島県立会津短大 甲野藤ウタ
松浦悠紀子

1. 被服構成学の立場では各年令層の体格を同時的に把握するとともに、個々の成長様相を追跡して計測することにも重要な意義があると考ええる。私共は小学生について追跡しようとして着手したが、その予備調査として福島県における中学生につき、学校身体検査記録により発育過程の概況を観察することとした。

2. 資料として昭和 44 年度に福島県喜多方市立喜多方第三中学校、福島大学教育学部附属中学校に在籍する男子計 571 名、女子計 501 名につき小学校 1 年次から当該年度までの学校身体検査記録を用いた。身長・体重・胸囲の 3 項目につき、(1)同年度の文部省学校保健統計報告の全国及び福島県資料と比較し、(2)学校別・性別に各学年における平均値、年間増加量を比較し、(3)女子については未・既潮者を分けて検討し、(4)個々の成長過程の様相を観察した。

3. 結果の一部について報告する。

(1)文部省全国資料との比較では喜多方三中の男子は概して劣り、女子は有意差が殆んどない。附属中は男女とも優れて有意差がある。福島県資料との比較では喜多方三中の男女は概して有意差なく、附属中の男女は優れる。

(2)両校男女各学年の小学校 1 年からの平均値・成長曲線はそれぞれにほぼ同様である。

(3)両校の各学年を一括して比較すると、男女とも附属中が優れ、大体平行した成長曲線を示す。性差は両校概して同じ傾向であるが、喜多方の男子の成長がやや遅れている。